



Subaru

男声合唱団

ニュース No.271 '10. 11. 05



「カツシア」別名「アンテスの乙女」
(撮影 I 先輩)

「聞け！」についての特集号

□新譜「聞け！」について若園さんと山本（直）さんから「聞け！」の解釈調査の寄稿がありましたので掲載します。熱心な研究調査で勉強になります。

ロシア革命歌 「聞け！」

投稿者：若園さん

ゴーリツ・ミッレル（1842～72）はモスクワ大学の学生運動に加わり、1861年に逮捕され、モスクワを追放された。その後、安住の地を得られぬまま病死した。この詩は64年雑誌「ソヴレンニク」に発表され、まもなくウクライナの作曲家で民謡研究家のソカーリスク（1832～87）により「ピアノ伴奏による合唱とテノールの独唱のためのバラード」として作曲された。ロシアの革命歌の走りの一つで、「夜は暗い」とともに獄中の苦しみを訴える歌。革命期を中心に広く歌われた。歩哨の足音だけが冷たく響く獄舎の夜の闇を見つめ、囚人たちの自由への思いと絶望の嘆きの声なき叫びに耳を傾ける歌詞に曲は大部分が“レチタティーヴォ”風に感情を抑えた旋律で、それが効果的に「聞け！」の二小節につながっている。

シスタコーヴィッヂは交響曲第11番（1950）の第1楽章に他の革命歌とともにこの曲を使っている。

注* “レチタティーヴォ”風とは話すことばの自然な抑揚を保った、又は、模倣あるいは強調した独唱用の声楽および楽典のこと。

（ロシア音楽辞典他より抽出）

「聞け！」の解釈調査

山本直一さんのメールから

「聞け！」の楽譜をもらった時、その歌詞の暗さに唖然とした。
三村さんから音源をもらって聞いてみると、歌詞に不似合いな明るさを不思議に思った。ボリシェビキはこの暗い歌詞を、このようないしたたかな旋律で歌っていたのであろうか？

若園さんから「シスタコーキュイッチ交響曲第11番「1905年」に使われている」と聞いて、早速図書館でCDを借りてきた。(アンドレ・クリュイタンス指揮・フランス国立放送管弦楽団・シスタコーキュイッチ立会による1958年録音)

第一楽章の大半を占める「聞け！」は、暗い歌詞とは全く別物である。冒頭の三連符を裏打ちするようなティンパニイは蜂起を誘導するような響きを持つ。後半のトランペットは蜂起の合図に聞こえる。コントラバスが奏でる三連符は大地をゆるがすとく鳴る。

CDの解説はソビエト崩壊後の1996年るので、以下のとおり面白い。

この曲は「1905年」というタイトルが示すように、ロマノフ王朝時代の「血の日曜日事件」(1905年)を題材としている。ところがこの曲が作られたのは1956年の「ハンガリー事件」の真っただ中であった。彼の友人の音楽学者は「この曲が描写しているのは、1905年の光景ではなく、ブダペストの街路をソビエト軍のタンクが轟音を立てて走っている姿である」と述べている。彼の息子が「パパ、この曲のせいで(ハンガリーを描いたことがバレて)絞首刑にならうするの？」と囁いたという。

この曲は「レーニン賞」を受賞しており、一方では、「ハンガリー事件」の真っただ中の発表であるから、ソ連の「プロパガンダ音楽」であるという悪評も強かった。だから、CDによっては解説のトーンがかなり違うかもしれない。

とはいってもソビエト崩壊後はシスタコーキュイッチを「プロパガンダ音楽家」などという声はなくなり、スターリンの恐怖政治の中で悩みぬいた偉大な作曲家としての名声はゆるぎない。この曲は「聞け！」の他に「夜は暗い」「同志は倒れぬ」「ワルシャワ労働歌」などが使われており、うたごえ関係者にとってはとっつきやすい曲である。

さて本題にもどって、「聞け！」の旋律は大作曲家が交響曲にとりこむくらいのものであるが、私は歌詞の暗さがどうしても引っかかる。この歌詞でこの曲を聴くはたくましく、明るくうたうことができるであろうか？この曲は、聴きの持ち歌として歌い続けられる曲であろうか？

この曲の歌詞には、「聞け！」(音楽センター訳)の他に、「聞けよ！」(合唱団白樺訳・うたごえ愛唱歌1000曲選に掲載)がある。詩を朗読詩として読むならば、私は「聞けよ！」のほうが好みである。ただし、歌詞の場合は旋律とのマッチングがあるからなんとも言えないが・・・・参考のために、「聞け！」と「聞けよ！」の歌詞を添付します。



ドミトリー・ショスタコーヴィチ

「聞け！」と「聞けよ！」

「聞け！」音楽センター訳詞	「聞けよ！」合唱団白樺訳詞
1. おごれる心のごと 秋の夜は暗い まぼろしのごと立つ人屋 おぼろなその影 ものうい見張りの靴音 闇深くしずむ 重くうめきのごとしずむ 聞け！ 聞け！	1. おごれる心のくもりか 秋の夜は暗く 夜霧の奥に立つ人屋 おぼろなその影 けだるい歩哨の靴音 遠くまた近く 悲しげにじじまを乱す 聞け！ 聞け！
2. 高い人屋の壁おさえ 鉄の枷（かせ）にぎり せめて見張りの剣（つるぎ）射る ひとすじの光を	2. 囚人（とらわれびと）窓辺により 暗闇（くらやみ）を見つめ 両（もう）の手に格子をつかみ 食い入るごとくに
3. 鉄の窓のむこう暗く ふくろう鋭く 人屋重くしずみゆくは 聞け！ 聞け！	3. 音なき夜更けに ふくろうの 鳴き声するどく 靴音は時をきざみぬ 聞け！ 聞け！
4. かすか影動き物音 見張りつかまえ 誰だ 影動き銃声なる 人屋ざわめく	3. けものか人か 闇に聞け うごめく影あり はげしく歩哨の声して 銃音（つつおと）とどろく
5. 深い胸の傷ふるわせ さらばわが自由 永久（とわ）告げ地に伏す 聞け！ 聞け！	5. 「わが運命よ さらば自由よ」 声なき叫びを 残して影は倒れ伏す 聞け！ 聞け！
6. 再び暗い夜のじじま おぼろな月影 雲に涙かくすがごと 悲し面（おも）おおう	4. たとえ厚き石の壁も 鉄（まがね）のくさりも 銃剣のきらめく闇に 見張りきびしくも
7. ものうい見張りの靴音 闇深くしずむ 重くうめきのごとしずむ 聞け！ 聞け！	6. 墓場のごとき静けさも 運命（さだめ）を誇りつ 生きゆく身をば縛りえず 聞け！ 聞け！ 5. 罪なき罪に苦しみて 年月を忘れ 自由に餓（かつ）えしこの身は はや疲れはてぬ 我をば守れ 闇深き おお 秋の夜よ 慰めよ囚（とら）われの身を 聞け！ 聞け！ 6. 再び訪（おとな）う静さ かいま見る月は もの言わぬ涙の顔を 雲間にかくしぬ けだるい歩哨の靴音 遠くまた近く 悲しげにじじまを乱す 聞け！ 聞け！